

嵯峨宏紀が第2戦で初めてのポールポジションを獲得、 新たな鈴鹿F3のレコードホルダーに 新加入の千代勝正ともども2戦連続で2位入賞果たす

アチーブメント全日本F3選手権第1戦&第2戦第1ラウンド)鈴鹿サーキット(5.807km)



2010年、ル・ボーセモータースポーツが挑むレースカテゴリーのひとつ、全日本F3選手権の開幕ラウンド/第1戦&第2戦が4月17日(土)、18日(日)の両日、三重県・鈴鹿サーキットで開催された。擁するドライバーは、引き続きCクラスで「DENSO・ルボーセF308」を駆る嵯峨宏紀。さらにNクラスにも復帰し、「BPダイシンルボーセF305」を駆る千代勝正も走らせることとなった。昨シーズン、嵯峨は念願としていた表彰台に上がり、ひとつ前進を果たすことになった。そこで今シーズンは、さらに目標を高めて初優勝を飾ることとし、加えて絶えず表彰台に上り続けることとする。また、千代にとってF3は2年目ながら、新たな環境に身を置くことで、本来備える実力をどれだけ引き出せるか。まずは嵯峨同様、初優勝を挙げるのが目標に。そのためにも開幕ダッシュが何より肝心。ふたりとも得意とする鈴鹿サーキットで勢いをつけることが、大いに期待された。

予選

4月17日 天候/コース状況:晴れ/ドライ

金曜日に行われた練習走行は、第1セッション走り始めの数周のみスリックタイヤが履けたものの、その後は雨が勢いを増してしまう。しかし、ウェットコンディションの中、嵯峨と千代はコンスタントに好タイムをマークしており、確かな手応えをつかんでいた。

そして、より雨が強くなった第2セッションでは、嵯峨が2番手を1秒半も引き離してトップタイムをマークする。千代は開始早々にブレーキトラブルに見舞われたものの、メカニックによる懸命の修復によって、終盤の20分を走行することができた。

その好感からウェットコンディションでの予選が望まれたが、天気は一転して晴れ模様。早朝まで濡れていた路面もF3が走る頃には、一部に濡れた部分を残す程度にまで乾いていた。久々のドライコンディションでの走行ながら、1回目の予選で真っ先にコースイン。これに千代も続いていった。

いきなり2周目に1分54秒台に入れた嵯峨は、次の周に53秒812をマークしてトップに浮上。しかも、最初にレコードタイムをも更新する。その後も53秒台を連発し、53秒789にまでタイムアップを果たすこととなった。だが、計測終了間際に国本雄資(トムス)にコンマ04秒という超僅差で逆転を許すことに。それでも自己最上位となる予選2番手を獲得。

そして、千代も周回を重ねると感触を確かめつつタイムを縮めていき、トップの小林崇志(HFDP)に続く、55秒790を5周目に記してクラス2番手に。しかも、チェッカーが振られるまでアタックを続け、よりマシンの理解を深めようという強い意志を見せた。

セッティングの微調整を行い、続いて挑んだ予選2回目でも勢いに衰えはなし。1回目では3周かかった、53秒台への突入を1周縮めたばかりか、次の周には壁を一気に突き抜けて、52秒778をマークすることに成功。その結果、嵯峨は誰にもトップを明け渡すことなく、決勝レース第2戦には初めてのポールポジションから挑むことに。そしてまた、従来のレコードタイムを約1秒も縮めた、鈴鹿F3の新レコードホルダーとして名を残すことになった。

千代もまた予選1回目から約1秒タイムを縮める、54秒862を4周目に記録。今度はトップのコンマ03秒差にまで詰め、より確かな手応えをつかめたのは何よりも収穫に。その結果、2戦ともクラス2番手から決勝レースに挑むこととなった。

決勝レース第1戦

4月17日 天候/コース状況:晴れ/ドライ

予選に引き続き天候に恵まれた決勝レース第1戦。ここで好スタートを決めた嵯峨だったが、ポールシッター国本のガードに阻まれ、トップ浮上は許されず。それでもフロントタイヤに熱が加わるにつれハンドリングは向上していき、やがて離れずに食らいついていくようになる。

終盤のタイムは、むしろ国本を上回って差も詰め始めた嵯峨ながら、逆転するまでは至らず。しかし、自己最上位となる位でのフィニッシュを果たしたばかりか、後半ほとんどの周回を1分54秒台で走って安定感もアピール。決勝レース第2戦に、より大きな期待を抱かせることとなった。

一方、千代はスタートを決めて小林を抜き、トップに浮上する。その後、130Rで再逆転を許したものの、後続を一切寄せつけずに周回を重ねる。結局、小林は隙を見せることなく2位でのゴールとはなったが、チーム移籍1戦目にして表彰台に上がり、幸先のいいスタートを切ることに成功した。

決勝レース第2戦

4月18日(日)天候/コース状況:晴れ/ドライ

日曜日の鈴鹿サーキットは、雲ひとつない好天となった。高まった気温や路面温度に合わせてセッティングの微調整を行い、マシンをグリッドへと送り込む。嵯峨にとってF3初のポールスタートながら、緊張の様子はほとんど感じられず。むしろ程よいテンションを保っていたようだ。

実際、嵯峨はスタートを決めて、オープニングラップをリード。だが、2周目のバックストレートでスリップストリームを使って差を詰めてきた国本に、続く130Rで逆転を許してしまう。それでも、しばらくの間は国本の背後につけてプレッシャーをかけ続ける、渾身の走りをを見せてくれたものの、逆転の機会は最後まで訪れなかった。

それでも第1戦同様、後続は一切寄せつけず2番手を保ったままフィニッシュ。ポールを奪っただけに悔しさは残るレースだったが、2戦連続で表彰台に上がって、シリーズをこれから戦い続ける上で、いい弾みをつけることとなった。

千代は第1戦に続いてスタートでトップ浮上を試みるが、今度は小林もミスを買わず。2周目の1コーナーでアウトから抜きにかかるも、しっかりガードを固められてしまう。そのままポジションキープのレースとなったものの、ラップタイムの安定感は今後に向けての好材料。そして、千代もまた2戦連続でクラス2位を得て、確かな感触をつかんでいた。

次のレースが行われるツインリンクもてぎは、チームにとってホームコースであり、データは豊富。ストップ&ゴーの連続するコースで、ブレーキングで勝負をかけられるクルマに仕上げ、さらなる表彰台の高みを目指す。



Driver
嵯峨宏紀
Koki SAGA
COMMENT

Driver
千代勝正
Katsumasa CHIYO
COMMENT

チーム監督
坪松唯夫
Tadao TSUBOMATSU
COMMENT

マカオ GP 以来、ドライコンディションではほとんど走れていなかったのですが、不安な部分があったにもかかわらず、高いパフォーマンスを発揮することができて、本当に満足しています。予選では2位、1位と、初めてチャンピオンチームと互角の戦いができた上に、コースレコードをマークできたことは自信につながりました。決勝に関しては、レースラップでコンスタントな速さを発揮することができませんでした。トップ争いをしたことで、はっきりとした課題を見つけたので、次のレースに向け「勝つ」ための方向性がつかめたと思っています。

ドライでのテストがほとんどできない状態で予選を迎えることになり、不安もありましたが、チームがとても良いマシンを作ってくれたおかげで、両レースでフロントローにつけることができ、またスタートから1周目にトップに肉迫することができました。今回は、しっかりと走り切ることが大事だと思いましたが、2戦とも2位という結果に満足はできませんが、今の自分のベストは尽くせたとします。この結果とデータを踏まえて、さらに強くなれるように、チームとともに頑張っていきたいと思っています。

事前の合同テストと練習走行では雨にたたられ、予選までにドライ状態でのマシンバランスを確認することができなかったが、ぶつつけ本番の予選ではふたりのドライバーとも十分なパフォーマンスと自分の価値を高める順位を確保してくれた。決勝ではふたりのドライバーとも両レース2位となったが、チームに良い刺激と結果をもたらしてくれた。チームはこの結果に満足せず、次戦もてぎの向けにさらなるパフォーマンス向上に努める。

第1戦 決勝

Cクラス	順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
	1	1	国本雄資	PETRONAS TEAM TOM'S	1
	2	62	嵯峨宏紀	DENSO Team Le Beausset	2
	3	2	Alexandre INPERATORI	TODA RACING	3
	4	36	Rafael SUZUKI	PETRONAS TEAM TOM'S	4
	5	12	関口雄飛	ThreeBond Racing	計測せず

Nクラス	順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
	1	8	小林崇志	HFDP RACING	1
	2	63	千代勝正	DENSO Team Le Beausset	2
	3	7	三浦和樹	HFDP RACING	3
	4	23	佐藤公哉	TEAM NOVA	5
	5	22	佐々木大樹	TEAM NOVA	6

第2戦 決勝

Cクラス	順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
	1	1	国本雄資	PETRONAS TEAM TOM'S	1
	2	62	嵯峨宏紀	DENSO Team Le Beausset	2
	3	36	Rafael SUZUKI	PETRONAS TEAM TOM'S	4
	4	12	関口雄飛	ThreeBond Racing	計測せず
	5	15	吉田広樹	ハナシマレーシング	5

Nクラス	順位	車番	ドライバー	チーム	予選順位
	1	8	小林崇志	HFDP RACING	1
	2	63	千代勝正	DENSO Team Le Beausset	2
	3	37	蒲生尚弥	TOM'S SPIRIT	7
	4	19	黒田吉隆	ACHIEVEMENT by KCMG	3
	5	22	佐々木大樹	TEAM NOVA	6

シリーズランキング

Cクラス	順位	車番	ドライバー	ポイント
	1	1	国本雄資	23
	2	62	嵯峨宏紀	15
	3	36	Rafael SUZUKI	8
	4	2	Alexandre INPERATORI	6
	5	12	関口雄飛	5

Nクラス	順位	車番	ドライバー	ポイント
	1	8	小林崇志	24
	2	63	千代勝正	14
	3	37	蒲生尚弥	6
	4	7	三浦和樹	5
	5	23	佐藤公哉	4

